

第3章 新入生および保護者調査の結果

—奨学金・学生寮に関するクロス集計—

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を取り上げ、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較して、今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点について明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 奨学金に関する結果

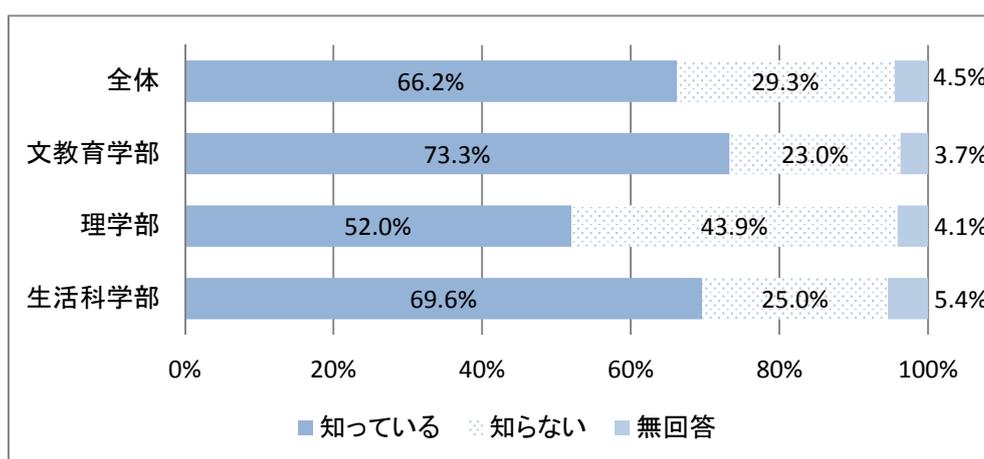
① 新入生の結果

<奨学金等制度の認知と受給経験>

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に示している。奨学金等制度について、一つでも認知していれば「知っている」とした。

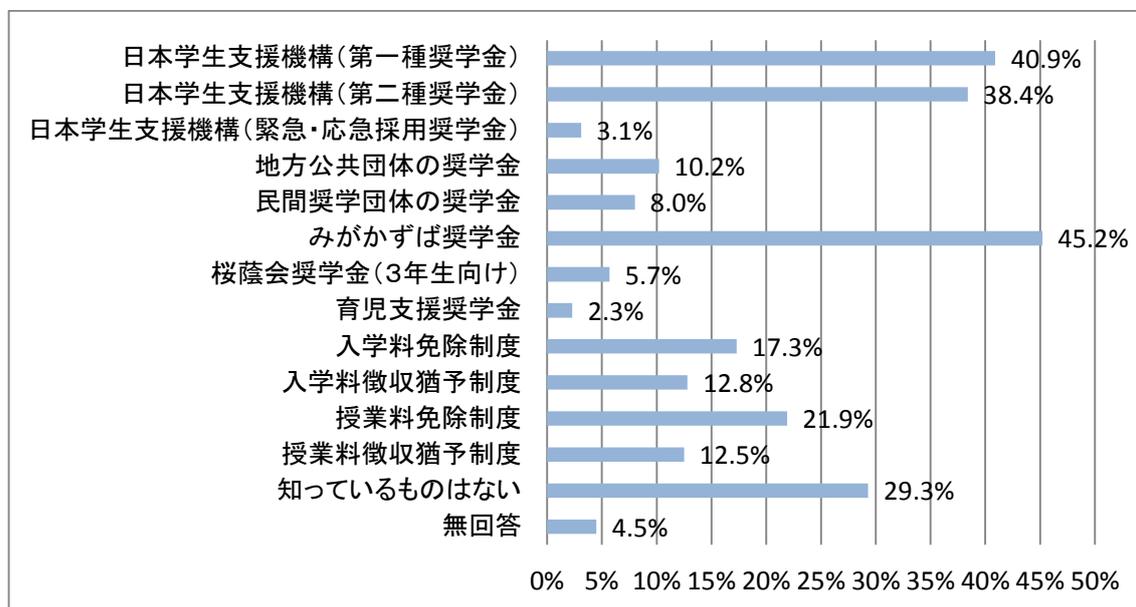
全体では66.2%の新入生が奨学金等制度について認知している。学部別にみると、理学部での認知度が他の学部と比べて15ポイント以上低い結果となっている。



図表1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。日本学生支援機構による奨学金が第一種は40.9%、第二種は38.4%とともに高い割合を示している。「知っているものはない」は29.3%であり、これは平成27年度新入生の30.3%とほぼ同様である。(お茶の水女子大学 2016)

本学独自の奨学金制度「みがかずば奨学金」については45.2%と最も高い割合で認知されている。この傾向は平成27年度新入生の44.0%、平成26年度新入生の44.5%と同様の傾向である。(お茶の水女子大学 2014：2016)



図表1-2 奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。「特待生」が3.7%と最も多く、ほかの奨学金等制度の受給経験はいずれも2%未満にとどまっている。

図表1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

奨学金名称	日本学生支援機構の奨学金	地方公共団体の奨学金	学校独自の奨学金	民間奨学団体の奨学金	新聞社の奨学金	その他の奨学金	学費免除	特待生
受けたことがある	1.1%	1.7%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	3.7%

<奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成した。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4～1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだいが2人以上いる場合には、奨学金等制度について認知している割合が高く、きょうだいのいない1人っ子である場合には奨学金等制度について認知している割合が低い傾向がみられた。ただし、きょうだい数と奨学金の認知について有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の傾向であった。

図表1-4 きょうだい数 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	33	18	51
		%	64.7%	35.3%	100.0%
	2人	度数	139	66	205
		%	67.8%	32.2%	100.0%
	3人以上	度数	62	19	81
		%	76.5%	23.5%	100.0%
合計		度数	234	103	337
		%	69.4%	30.6%	100.0%

p<.256

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。公立高校出身者は奨学金等制度について認知している割合が高く、私立高校出身者には奨学金等制度について認知している割合が低いという傾向がみられた。ただし出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連は見られなかった。

図表1-5 出身高校設置者 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校 設置者	公立	度数	149	52	201
		%	74.1%	25.9%	100.0%
	私立	度数	72	46	118
		%	61.0%	39.0%	100.0%
	国立	度数	11	4	15
		%	73.3%	26.7%	100.0%
	海外	度数	2	1	3
		%	66.7%	33.3%	100.0%
合計		度数	234	103	337
		%	69.4%	30.6%	100.0%

p<.105

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高いことが明らかとなった。昨年度は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」の間には有意な関連は見られなかった。

図表1-6 奨学金受給経験 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金 受給経験	あり	度数	29	1	30
		%	96.7%	3.3%	100.0%
	なし	度数	205	102	307
		%	66.8%	33.2%	100.0%
合計		度数	234	103	337
		%	69.4%	30.6%	100.0%

p<.001

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生は、奨学金等制度についても認知している割合が高いことが示された。

図表1-7 入学後の予定住居 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の 予定住居	実家	度数	118	70	188
		%	62.8%	37.2%	100.0%
	実家以外	度数	116	33	149
		%	77.9%	22.1%	100.0%
合計		度数	234	103	337
		%	69.4%	30.6%	100.0%

p<.003

図表1-8は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表1-8での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送りがないか、あるいは5万円未満の場合、奨学金を認知している割合が高い傾向がみられた。ただし、仕送り額と奨学金認知との間に有意な関連はみられなかった。

図表1-8 仕送り額 と 奨学金認知 のクロス表

		奨学金認知		合計	
		知っている	知らない		
仕送り額	仕送りなし	度数	13	3	16
		%	81.3%	18.8%	100.0%
	5万円未満	度数	14	1	15
		%	93.3%	6.7%	100.0%
	5万円以上 10万円未満	度数	53	15	68
		%	77.9%	22.1%	100.0%
	10万円以上	度数	32	15	47
		%	68.1%	31.9%	100.0%
合計		度数	112	34	146
		%	76.7%	23.3%	100.0%

p<.211

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-9 学生寮認知 と 奨学金認知 のクロス表

		奨学金認知		合計	
		知っている	知らない		
学生寮認知	知っている	度数	196	50	246
		%	79.7%	20.3%	100.0%
	知らない	度数	38	52	90
		%	42.2%	57.8%	100.0%
合計		度数	234	102	336
		%	69.6%	30.4%	100.0%

p<.000

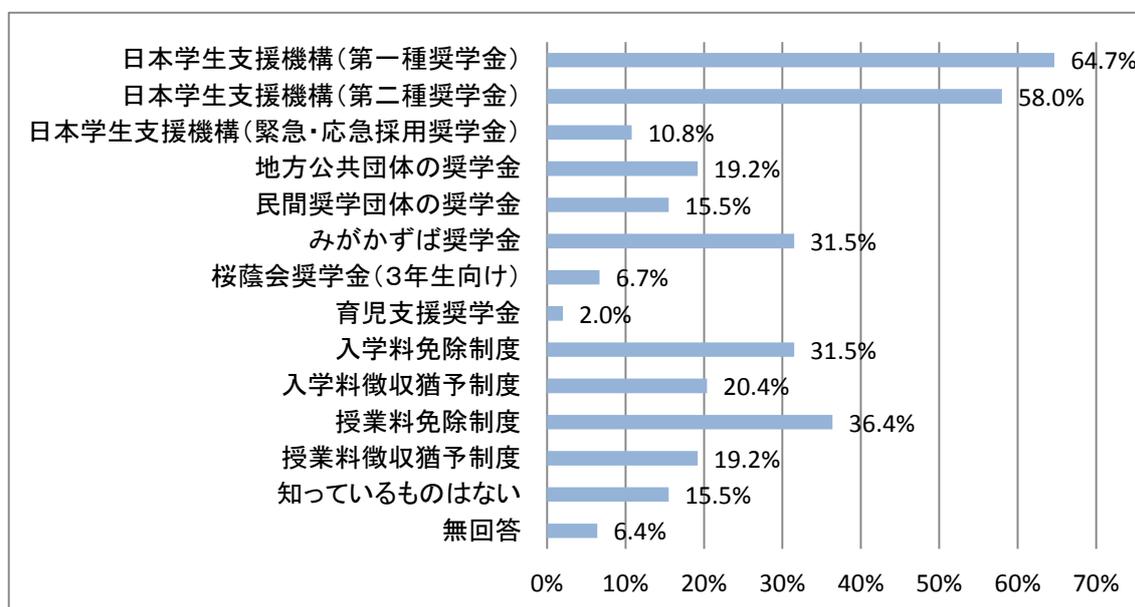
② 保護者の結果

〈奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望〉

保護者票の奨学金等制度の認知、受給経験、利用希望について示したものが図表 2-1～2-3 である。

図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

奨学金制度に関しては、日本学生支援機構第一種が64.7%、第二種も58.0%と最も高い認知率である。本学独自の奨学金制度である「みがかずば奨学金」については31.5%で、これは平成27年度の保護者の33.6%と同じ傾向である。学費免除・猶予の制度に関しては、免除制度の認知率は全体の3割を超えているのに対し、猶予制度の認知率は全体の2割程度であり、昨年度と同じ傾向を示している（お茶の水女子大学 2016）。



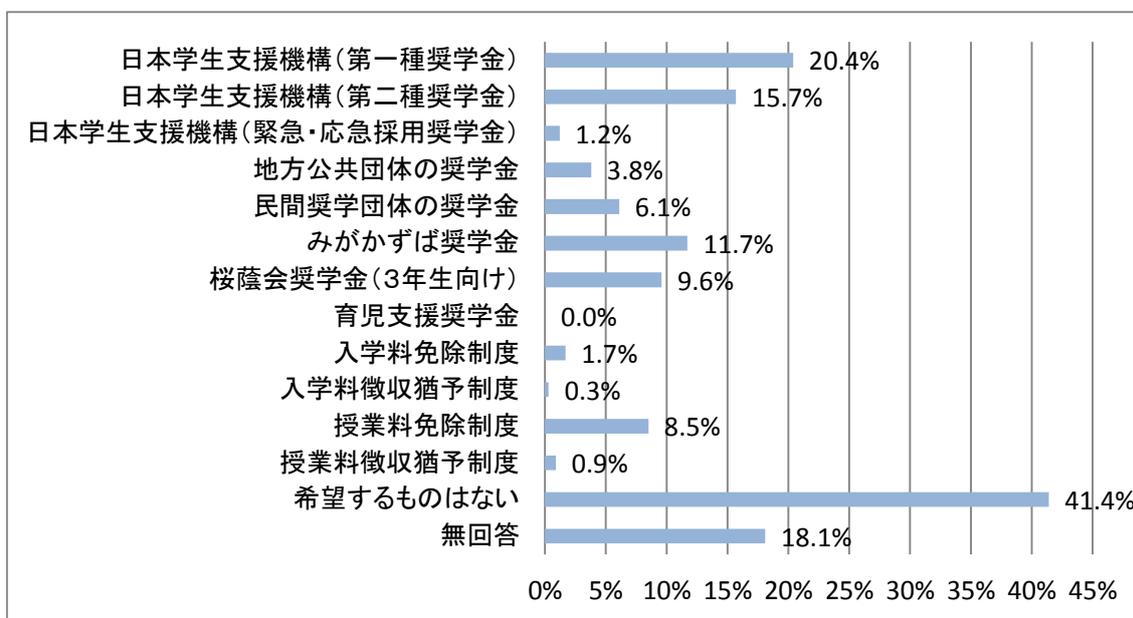
図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表2-2では本学入学予定のご子女がこれまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として保護者に尋ねた結果である。「特待生」が最も多く3.8%であった。「日本学生支援機構の奨学金」については0.6%であり、これは平成27年度の2.1%と比較して1.5ポイント低い結果となった。（お茶の水女子大学 2016）

図表 2-2 制度別奨学金等制度の受給経験(保護者票)

奨学金名称	日本学生支援機構の奨学金	地方公共団体の奨学金	学校独自の奨学金	民間奨学団体の奨学金	新聞社の奨学金	その他の奨学金	学費免除	特待生
受けたことがある	0.6%	1.7%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	3.8%

図表 2-3 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について複数回答可として尋ねた結果である。奨学金制度については、日本学生支援機構による奨学金の利用希望が最も高く、第一種で 20.4%、第二種で 15.7%である。本学独自の奨学金制度である「みがかずば奨学金」は 11.7%であり、日本学生支援機構に次ぐ希望率である。学費免除制度については、授業料免除制度が 8.5%、入学金免除制度が 1.7%である。これは平成 27 年度の結果と同様であった。



図表 2-3 奨学金等制度の利用希望

<奨学金希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれの結果を図表 2-4～2-12 に示す。

図表 2-4 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親の場合、奨学金を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-4 家計支持者 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者	父	度数	121	137	258
		%	46.9%	53.1%	100.0%
	母	度数	18	5	23
		%	78.3%	21.7%	100.0%
合計		度数	139	142	281
		%	49.5%	50.5%	100.0%

p<.004

図表 2-5 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親の就労形態がフルタイム勤務である場合には奨学金を希望する割合が低く、その他の場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度同様の結果であった。

図表2-5 父親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	107	131	238
		%	45.0%	55.0%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	2	1	3
		%	66.7%	33.3%	100.0%
	自 営	度数	15	7	22
		%	68.2%	31.8%	100.0%
	無 職	度数	2	2	4
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	いない	度数	10	1	11
		%	90.9%	9.1%	100.0%
合計		度数	136	142	278
		%	48.9%	51.1%	100.0%

p<.012

図表 2-6 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。母親が無職である場合は奨学金を希望する割合が低く、フルタイム勤務である場合には奨学金を希望する割合が高いことが明らかになった。昨年度は「母親の就労形態」と「奨学金希望」の間には有意な関連は見られなかった。

図表2-6 母親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	49	25	74
		%	66.2%	33.8%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	53	51	104
		%	51.0%	49.0%	100.0%
	自 営	度数	8	7	15
		%	53.3%	46.7%	100.0%
	無 職	度数	26	59	85
		%	30.6%	69.4%	100.0%
	いない	度数	2	0	2
		%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	138	142	280
		%	49.3%	50.7%	100.0%

p<.000

図表2-7は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-7 入学後の暮らし向き と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	124	53	177
		%	70.1%	29.9%	100.0%
	ゆとりがある	度数	13	88	101
		%	12.9%	87.1%	100.0%
合計		度数	137	141	278
		%	49.3%	50.7%	100.0%

p<.000

図表2-8は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。世帯年収が低いほど奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が高いほど奨学金を希望する割合が低いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-8 世帯年収 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	19	1	20	
		%	95.0%	5.0%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	23	6	29	
		%	79.3%	20.7%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	33	15	48	
		%	68.8%	31.3%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	32	37	69	
		%	46.4%	53.6%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	21	32	53	
		%	39.6%	60.4%	100.0%	
	1200万円以上	度数	9	44	53	
		%	17.0%	83.0%	100.0%	
	合計		度数	137	135	272
			%	50.4%	49.6%	100.0%

p<.000

図表2-9は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が低いほど奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が高いほど奨学金を希望する割合が低いことが明らかになった。これも昨年度と同様の結果であった。

図表2-9 家計支持者年収 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	29	3	32	
		%	90.6%	9.4%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	30	8	38	
		%	78.9%	21.1%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	38	29	67	
		%	56.7%	43.3%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	23	39	62	
		%	37.1%	62.9%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	13	24	37	
		%	35.1%	64.9%	100.0%	
	1200万円以上	度数	5	32	37	
		%	13.5%	86.5%	100.0%	
	合計		度数	138	135	273
			%	50.5%	49.5%	100.0%

p<.000

図表2-10は「奨学金受給経験」と「奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-10 奨学金受給経験 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
奨学金 受給経験	なし	度数	118	138	256
		%	46.1%	53.9%	100.0%
	あり	度数	21	4	25
		%	84.0%	16.0%	100.0%
合計		度数	139	142	281
		%	49.5%	50.5%	100.0%

p<.000

図表2-11は「学生寮認知」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。昨年度は「学生寮認知」と「奨学金希望」との間に有意な関連は見られなかった。

図表2-11 学生寮認知 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮認知	知っている	度数	101	68	169
		%	59.8%	40.2%	100.0%
	知らない	度数	38	74	112
		%	33.9%	66.1%	100.0%
合計		度数	139	142	281
		%	49.5%	50.5%	100.0%

p<.000

図表2-12は「学生寮希望」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を希望している場合は奨学金を希望する割合も高いことが示された。

図表2-12 学生寮希望 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮希望	希望する	度数	66	13	79
		%	83.5%	16.5%	100.0%
	希望しない	度数	66	126	192
		%	34.4%	65.6%	100.0%
合計		度数	132	139	271
		%	48.7%	51.3%	100.0%

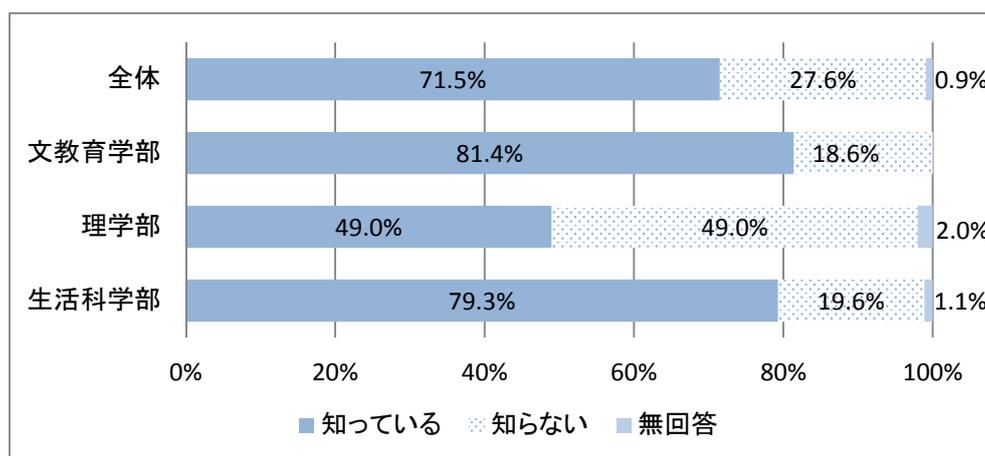
p<.000

(3) 学生寮に関する結果

① 新入生の結果

〈学生寮の認知〉

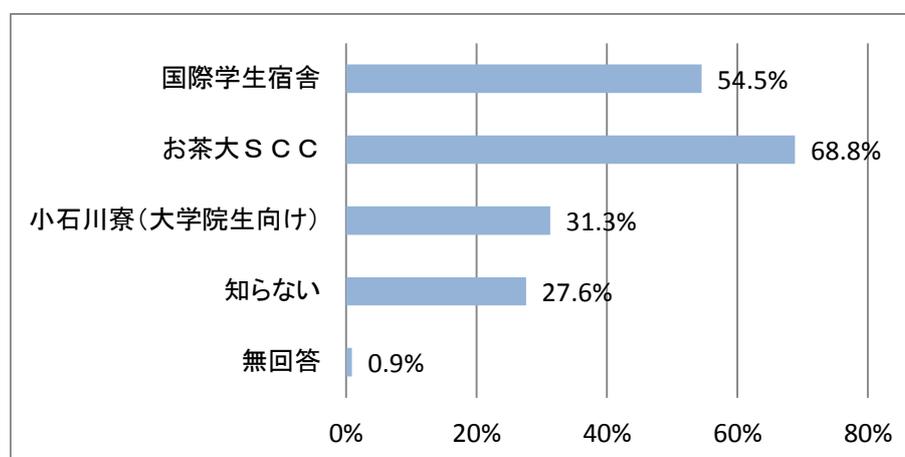
図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。一つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では71.5%の新入生が学生寮について認知している。学部別にみると、理学部が他学部に比べて30ポイント以上低い結果となっている。



図表 3-1 学生寮に対する認知（学部別）

図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学には国際学生宿舎（学部生対象）、お茶大 SCC（学部1・2年生対象）、小石川寮（大学院生対象）の3つの学生寮がある。

認知率はお茶大 SCC が 68.8% と最も高いが、平成 27 年度新入生の認知率 71.9% と比べると 3.1 ポイント低い結果となっている。国際学生宿舎の認知率 54.5% は、平成 27 年度新入生の 48.7% と比べると 5.8 ポイント高くなっている。（お茶の水女子大学 2016）



図表 3-2 学生寮に対する認知（寮別）

＜学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表＞

次に、どのような新入生が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の認知」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 3-3～3-7 に示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1つでも知っているものがあれば「知っている」とした。

図表3-3では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知との間には有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表3-3 きょうだい数 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	41	12	53
		%	77.4%	22.6%	100.0%
	2人	度数	148	65	213
		%	69.5%	30.5%	100.0%
	3人以上	度数	64	20	84
		%	76.2%	23.8%	100.0%
合計		度数	253	97	350
		%	72.3%	27.7%	100.0%

p<.340

図表3-4は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。公立高校出身者は学生寮について認知している割合が高いこと、私立高校出身者は学生寮について認知している割合が低いことが明らかになった。

図表3-4 出身高校設置者 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	161	45	206
		%	78.2%	21.8%	100.0%
	私立	度数	77	45	122
		%	63.1%	36.9%	100.0%
	国立	度数	12	5	17
		%	70.6%	29.4%	100.0%
	海外	度数	3	1	4
		%	75.0%	25.0%	100.0%
合計		度数	253	96	349
		%	72.5%	27.5%	100.0%

p<.033

図表3-5は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。奨学金受給経験がある場合、学生寮について認知している割合が高い傾向がみられた。ただし、奨学金受給経験と学生寮認知との間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表3-5 奨学金受給経験 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金 受給経験	あり	度数	235	85	320
		%	73.4%	26.6%	100.0%
	なし	度数	18	12	30
		%	60.0%	40.0%	100.0%
合計		度数	253	97	350
		%	72.3%	27.7%	100.0%

p<.116

図表3-6では「入学後の住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高いことが明らかになった。

図表3-6 入学後の予定住居 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の 予定住居	実家以外	度数	133	18	151
		%	88.1%	11.9%	100.0%
	実家	度数	120	79	199
		%	60.3%	39.7%	100.0%
合計		度数	253	97	350
		%	72.3%	27.7%	100.0%

p<.000

図表 3-7 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-7 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には有意な関連は見られなかった。

図表3-7 仕送り額 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	13	3	16
		%	81.3%	18.8%	100.0%
	5万円未満	度数	14	1	15
		%	93.3%	6.7%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	63	6	69
		%	91.3%	8.7%	100.0%
	10万円以上	度数	39	8	47
		%	83.0%	17.0%	100.0%
合計		度数	129	18	147
		%	87.8%	12.2%	100.0%

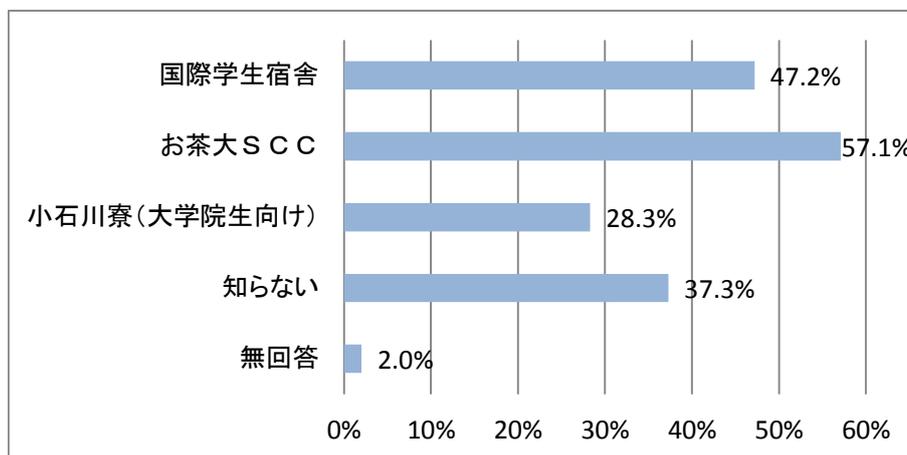
p<.412

② 保護者の結果

〈学生寮の認知と利用希望〉

図表 4-1 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。

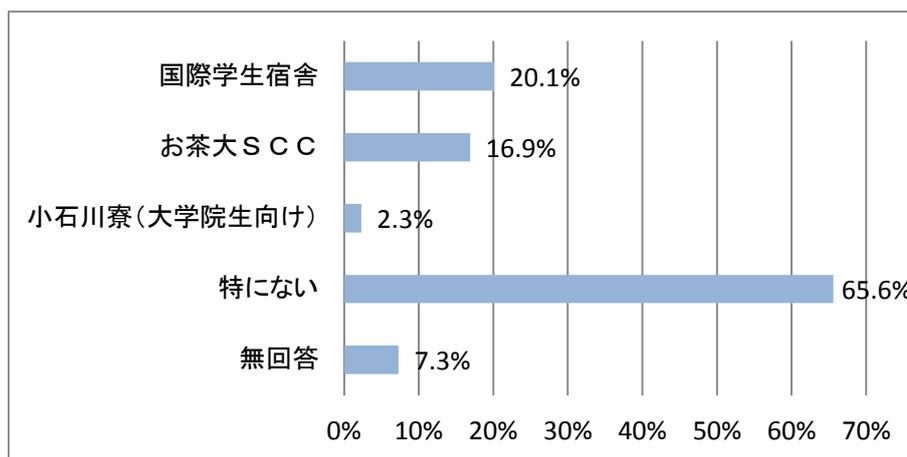
お茶大 SCC が 57.1%、国際学生宿舎がそれに続いて 47.2%の認知率である。全体の傾向として平成 27 年度の新入生の保護者と同じ傾向がみられた。



図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

「国際学生宿舎」への入寮希望が 20.1%であり、これは平成 27 年度新入生の保護者の 17.4%と比べて 2.7 ポイント高い結果となった。次いで「お茶大 SCC」が 16.9%であった。「特にない」が 65.6%であり、これは平成 27 年度新入生の保護者の 70.5%と比べて 4.9 ポイント低い結果となった。



図表 4-2 本学の学生寮への入寮希望

<学生寮希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が学生寮を希望しているか明らかにするために「学生寮希望」とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 4-3～4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「学生寮希望」のクロス表である。家計支持者が母親である場合には学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。昨年度は「家計支持者」と「学生寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表4-3 家計支持者 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父親	度数	82	213	295
		%	27.8%	72.2%	100.0%
	母親	度数	12	12	24
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	94	225	319
		%	29.5%	70.5%	100.0%

p<.022

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「学生寮希望」のクロス表である。父親の就労形態がフルタイム勤務の場合には学生寮を希望する割合が低い傾向が見られた。ただし、父親の就労形態と学生寮希望との間に有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の傾向であった。

図表4-4 父親の就労形態 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	77	197	274
		%	28.1%	71.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	1	2	3
		%	33.3%	66.7%	100.0%
	自 営	度数	8	15	23
		%	34.8%	65.2%	100.0%
	無 職	度数	2	3	5
		%	40.0%	60.0%	100.0%
	いない	度数	4	7	11
		%	36.4%	63.6%	100.0%
合計		度数	92	224	316
		%	29.1%	70.9%	100.0%

p<.896

図表 4-5 では「母親の就労形態」と「学生寮希望」のクロス表である。母親がフルタイム勤務である場合、学生寮を希望する割合が高いことが示された。昨年度は「母親の就労形態」と「学生寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表4-5 母親の就労形態 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	40	49	89
		%	44.9%	55.1%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	30	86	116
		%	25.9%	74.1%	100.0%
	自 営	度数	3	13	16
		%	18.8%	81.3%	100.0%
	無 職	度数	18	77	95
		%	18.9%	81.1%	100.0%
	いない	度数	2	0	2
		%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	93	225	318
		%	29.2%	70.8%	100.0%

p<.000

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「学生寮の希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。

図表4-6 入学後の暮らし向き と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	80	111	191
		%	41.9%	58.1%	100.0%
	ゆとりがある	度数	13	110	123
		%	10.6%	89.4%	100.0%
合計		度数	93	221	314
		%	29.6%	70.4%	100.0%

p<.000

図表 4-7 では「世帯年収」と「学生寮希望」のクロス表である。世帯年収について「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。世帯年収が低いほど、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表4-7 世帯年収 と 学生寮希望 のクロス表

		学生寮希望		合計		
		希望する	希望しない			
世帯年収	400万円未満	度数	12	10	22	
		%	54.5%	45.5%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	14	15	29	
		%	48.3%	51.7%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	16	34	50	
		%	32.0%	68.0%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	24	51	75	
		%	32.0%	68.0%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	16	49	65	
		%	24.6%	75.4%	100.0%	
	1200万円以上	度数	10	58	68	
		%	14.7%	85.3%	100.0%	
	合計		度数	92	217	309
			%	29.8%	70.2%	100.0%

p<.001

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「学生寮希望」のクロス表である。家計支持者の年収が低いほど、学生寮を希望する割合が高いことが明らかとなった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表4-8 家計支持者年収 と 学生寮希望 のクロス表

		学生寮希望		合計		
		希望する	希望しない			
家計支持者年収	400万円未満	度数	18	14	32	
		%	56.3%	43.8%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	19	20	39	
		%	48.7%	51.3%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	25	51	76	
		%	32.9%	67.1%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	17	54	71	
		%	23.9%	76.1%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	10	39	49	
		%	20.4%	79.6%	100.0%	
	1200万円以上	度数	4	40	44	
		%	9.1%	90.9%	100.0%	
	合計		度数	93	218	311
			%	29.9%	70.1%	100.0%

p<.000

図表 4-9 は「奨学金受給経験」と「学生寮の希望」のクロス表である。過去に奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高い傾向が見られた。ただし、「奨学金受給経験」と「学生寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同じ結果である。

図表4-9 奨学金受給経験 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
奨学金 受給経験	なし	度数	83	209	292	
		%	28.4%	71.6%	100.0%	
	あり	度数	11	16	27	
		%	40.7%	59.3%	100.0%	
合計			度数	94	225	319
			%	29.5%	70.5%	100.0%

p<.179

図表 4-10 は「学生寮認知」と「学生寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合が高いことが示された。昨年度は「学生寮認知」と「学生寮希望」との間に有意な関連は見られなかった。

図表4-10 学生寮認知 と 学生寮希望 のクロス表

			学生寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
学生寮認知	知っている	度数	92	102	194	
		%	47.4%	52.6%	100.0%	
	知らない	度数	2	123	125	
		%	1.6%	98.4%	100.0%	
合計			度数	94	225	319
			%	29.5%	70.5%	100.0%

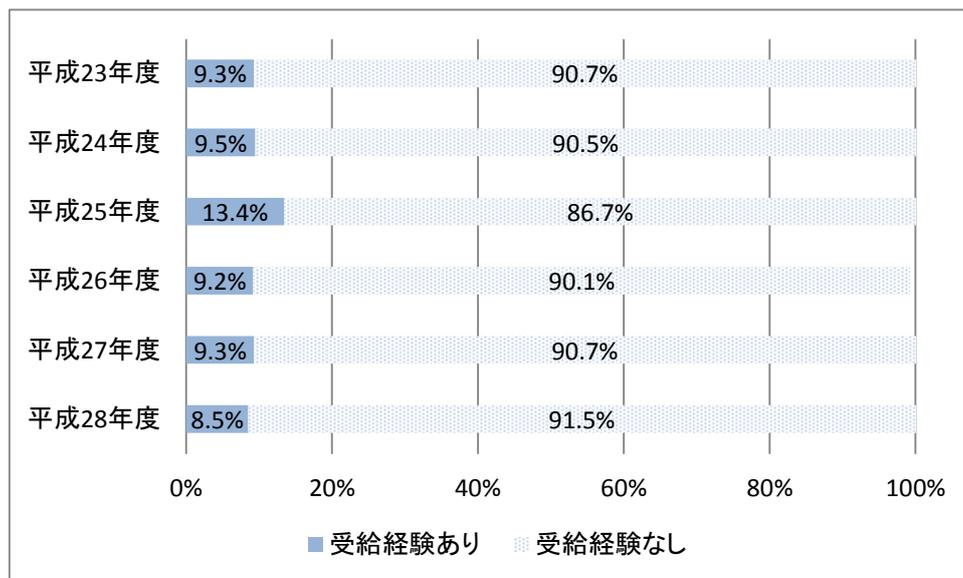
p<.000

(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

① 新入生

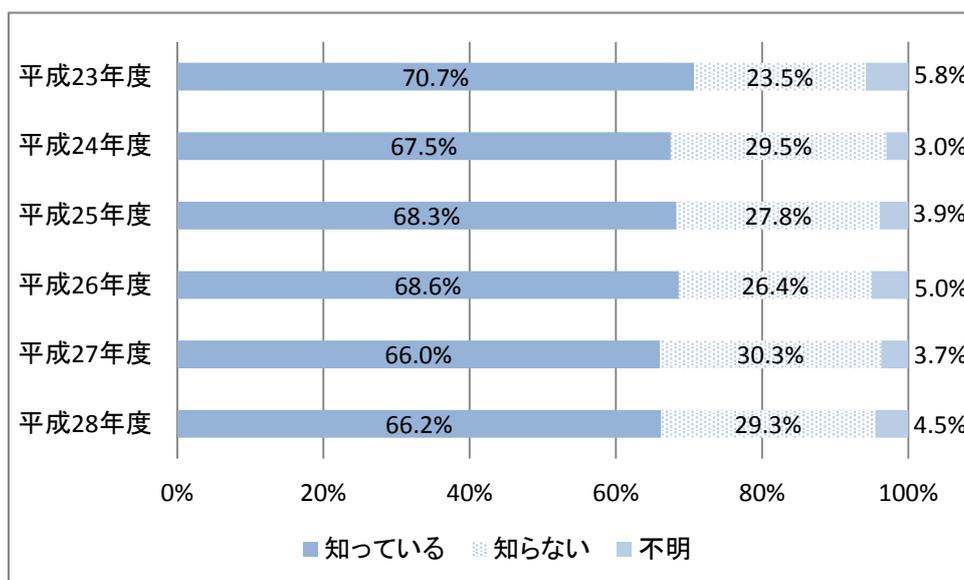
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去5年間の結果と比較したものを図表5-1～5-3に示す。

図表5-1は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去5年間の結果と比較したものである。今年度の奨学金受給経験については「経験あり」8.5%、「経験なし」91.5%と、昨年度と比べて大きな違いはみられなかった。



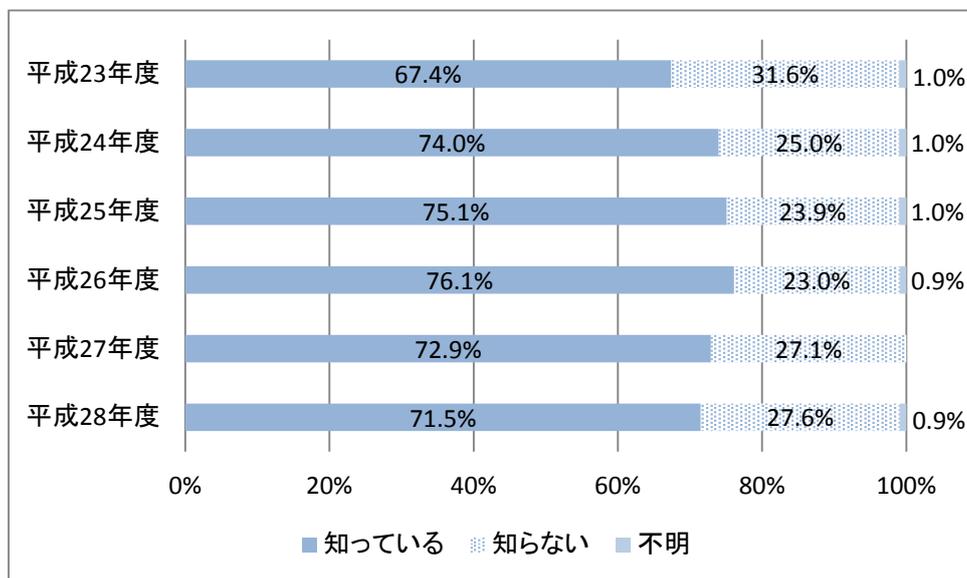
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表5-2は新入生の奨学金等制度の認知について過去5年間の結果と比較したものである。奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が66.2%、「知らない」が29.3%と昨年度と比べて大きな変化は見られなかった。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮認知についての過去 5 年間の結果と比較したものである。今年度は「知っている」が 71.5%であり、昨年度と比べて 1.3 ポイント減少している。学生寮は、平成 26 年度以降認知率が低下している。

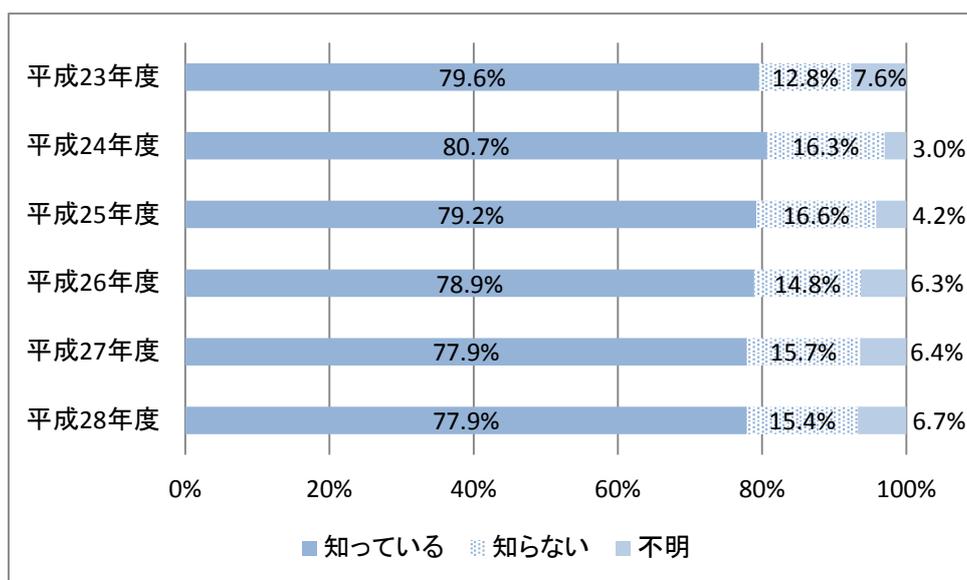


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

② 保護者

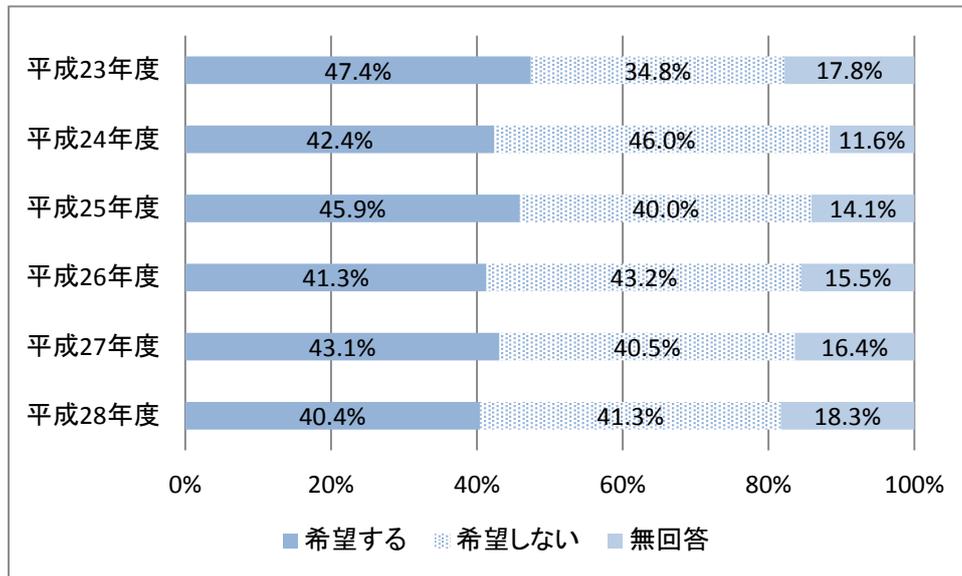
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 5 年間の結果と比較したものを図表 6-1～6-4 に示す

図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 5 年間の結果と比較したものである。今年度は「知っている」が 77.9%であり、昨年度に引き続いて最も低い認知率を示している。



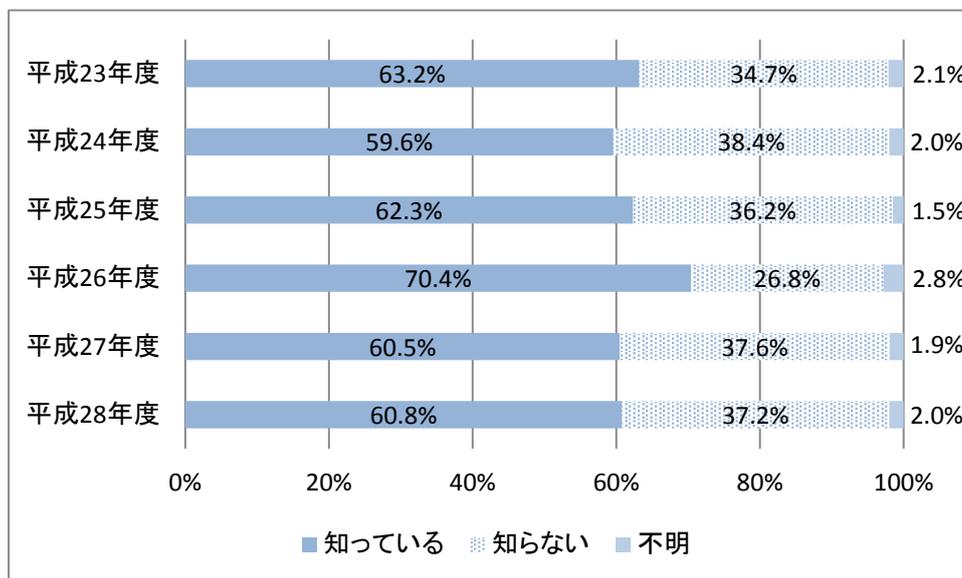
図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去 5 年間の結果と比較したものである。今年度は「希望する」が 40.4%であり、昨年度の 43.1%と比較して 2.7 ポイント減少している。平成 28 年度の「希望する」を回答した割合は、過去 5 年間の結果の中で最も低い。



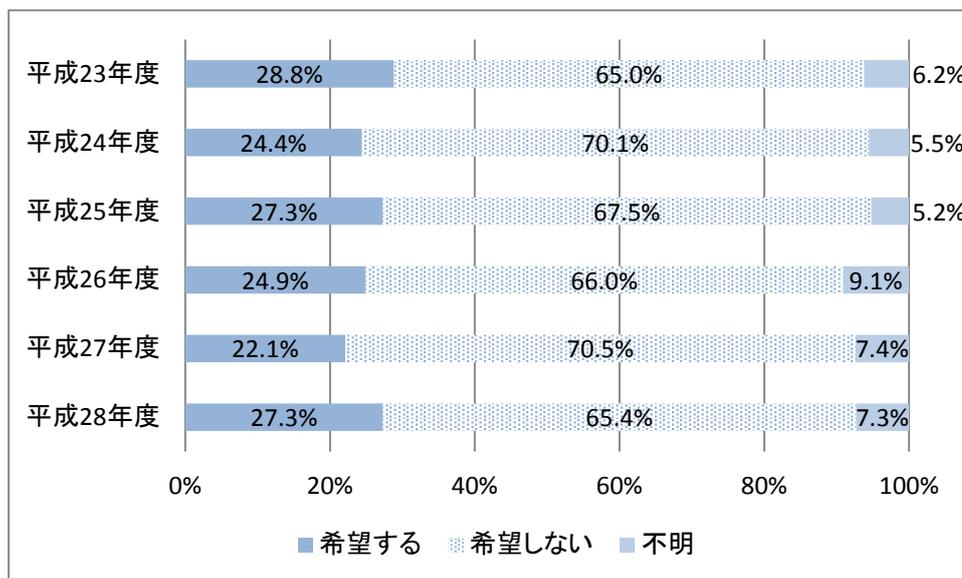
図表 6-2 保護者の奨学金等制度利用希望 過年度比較

図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 5 年間の結果と比較したものである。今年度は「知っている」が 60.8%であり、これは昨年度と同じ傾向である。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去 5 年間の結果と比較したものである。今年度は「希望する」が 27.3%であり、昨年度と比較して 5.2 ポイント増加している。



図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較